

天然温泉 佐久ホテル 旭湯

Tennen Onsen Saku Hotel
(長野県佐久市)



今回紹介する風呂は佐久ホテルの旭湯である。この温泉は室町時代に掘削され、開湯 600 年を誇る。武田信玄、若山牧水、島崎藤村、北原白秋、種田山頭火、小林一茶、葛飾北斎などの歴史上の人物も利用している老舗だ。

佐久ホテルは佐久の商店街から少し横道に入ったところにある。ここは中山道の岩村田宿にあたり、昔は

宿場として栄えた。現在は佐久平駅、佐久インターから近く、常に交通の要所である。

中に入ると、フロントの横に庭のような空間がある。名物の天茶や、コーヒー、焼酎などをふるまうスペースもあり、ドキドキさせられると同時にほっとさせられる空間だ。天茶は甘さが砂糖の 400 倍なのに、カロリーがゼロという不思議なお茶である。

温泉はフロントの右手の通路を進み、階段を降りたところにある。旭湯の名の由来であるが、武田信玄が入湯した際に、謝礼として残した掛軸の中軸が水晶の円柱でできており、それを覗けば旭が見えることから旭湯となったと伝えられている。

脱衣室には棚が 11 個あり、これに脱いだものを入れる。棚が 11 個あるのに籠は 6 個しかないが、深い意味はないであろう。貴重品ロッカーはないので、日帰り入浴者は貴重品をフロントに預けた方がよい。

浴室に入ると、正面に浴槽、左手に洗い場がある。それ以外のものはないので、極めてシンプルな風呂だ。湯は薄い茶褐色で匂いがある（鉄、硫化水素の匂いと思われる）。湯温はやや熱めだ。奥に水栓があるので、ぬるめながら入ることができる。

この湯、佐久ホテルの説明によれば、メタケイ酸含有量が温泉法の限界以上のため、温泉法第 2 条に言う温泉に該当する「規定泉」（中性低張性冷鉱泉）となっている。ただ、私が後日調べた限り、温泉法には濃度の下限は規定されているが、上限は規定されていないようだ。いずれにしても、濃度が高すぎるので、温泉としての効能は強烈なのであろうと想像できる。

洗い場は 4 か所。洗い場にはシャンプー、リンス、固形石鹸が完備されている。私は洗い場を利用せず、浴槽から湯をくみ上げて体を洗うことにした。せっかくの温泉である。たっぴりと利用したい。

本日は今シーズンの初スキーであった。スキーの後は温泉に入り、酒を飲む。あたりまえのようにこれらができることに感謝するほかはない。

ちなみに佐久ホテルには、結婚式場やレストランとしても利用可能である。なんと、それも世界最古のレストランであるとして、ギネスブックに申請中であるという。現在ギネスブックに登録された最古

のレストランの開業年は 1725 年。佐久ホテルはそれをはるかに上回る 1428 年開業であると主張して、当時のメニューを根拠資料として提出したという。

歴史に浸れる温泉宿。それが佐久ホテルである。しかし、何も構える必要はない。宿泊費はごく普通の価格だ。



DATA

名称	天然温泉 佐久ホテル 旭湯
所在地	長野県佐久市岩村田中山道今宿 553 番地
電話	0267-67-3003
営業時間	宿泊者は 7 : 00 ~ 9 : 00、16 : 00 ~ 22 : 00 日帰り入浴は 11 : 30 ~ 15 : 00
定休日	無休
入浴料	宿泊者は無料 大人、小人とも 500 円、レストランの利用者は 150 円
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2017 年 12 月 2 日 (土)
取材	銭湯愛好会東京支部